

東京音楽大学リポジトリ

Tokyo College of Music Repository

ヨーロッパの学校における芸術教育

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2010-12-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/882

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



ヨーロッパの学校における芸術教育

木戸 芳子

はじめに

本稿では、ヨーロッパの学校における芸術教育について大きく二部に分けて概観したい。

まずⅠでは、EU（欧州連合）の欧州委員会が作成した資料¹をもとに、ヨーロッパ各国（EU27 各国とアイスランド、リヒテンシュタイン、ノルウェー）の学校において芸術教育がどのように行われているのか、主として制度面から見ていく。テーマをいくつかにしぼり、ヨーロッパにおける芸術教育の実施状況について、共通の指標のもとでヨーロッパ各国の状況を横断的に比較対照させる。そのなかで、芸術教育が何を目的とし、どのように教えられているか、また芸術を担当する教員の養成はどうなっているのか等についてまとめてみる。

次にⅡでは、ドイツを事例として、とくにギムナジウムの音楽科の学習指導要領とアビトゥーア試験（ギムナジウムの卒業試験であると同時に大学入学資格試験）における音楽科の試験問題の実際を訳出して紹介する。ドイツは16州からなる連邦制の国家で、学習指導要領に関しても全ドイツに一律に適用されるといったものはないので、バイエルン州を例に取り上げ、同州のギムナジウムにおける音楽科の「教授プラン」（学習指導要領）と、2010年に実施された音楽のアビトゥーア試験を翻訳してみた²。あわせて、文部大臣会議が作成したアビトゥーア試験問題の作成基準のなかから音楽に関する部分を抜粋して紹介する³。

最後に、Ⅰ、Ⅱを通してわれわれはどのような示唆が得られるか、若干のまとめを試みたい。取り上げる内容が多岐にわたり、どこまで全体像を浮かび上がらせることができるかわからな

1 同じ内容の英・独・仏語版が刊行されているが、本稿執筆にあたっては、ドイツ語版を使用した。EACEA, *Kunst- und Kulturerziehung an den Schulen in Europa*, Brüssel: Eurydice, 2009. 以下、引用にあたっては、*„Kunsterziehung“* と略す。なお、英語版（Arts and Cultural Education at School in Europe）も随時参照した。

2 ドイツでは、アビトゥーア試験は、各州ごとに州の統一試験として行われている。

3 ドイツは連邦制の国家で、教育に関しては州が所管している。各州ごとに文部省に相当する省が置かれ、学習指導要領も州ごとに定められている。ドイツ全般に関わる大綱については、各州の文部大臣が集まり文部大臣会議の場で協定が締結される。

いが、ヨーロッパにおいて行われている芸術教育、音楽教育理解の一助になることができれば幸いである。

I ヨーロッパ各国における芸術教育

1 教授プランに示されている芸術教育の目標

ヨーロッパ各国の初等教育、前期中等教育の「教授プラン」(Lehrplan)⁴のなかで「芸術教育」の目標としてどのような内容が挙げられているかを示したのが、図1である⁵。

①の「芸術的能力」(künstlerische Fähigkeiten)、「芸術および芸術理解に関する知識」は、いずれの国でも、一般的な目標として挙げられている。「芸術的能力」は、「芸術言語」(Sprache der Kunst) (たとえば、美術における色彩、線、形の理解、音楽においては音楽を聴き、理解する能力、楽器演奏能力)を構築する基盤となる能力である。「芸術的能力」の開発は、様々な様式やジャンルの習得も含んでいる。こうした関連で、いくつかの国では、一定の作品を引き合いに出している(とくに音楽や演劇分野)。芸術理解という場合、芸術的概念が念頭に置かれる傾向がある。たとえば、様々な芸術的表現手段を理解し、あるいは芸術家相互の関係、文化的または物質的な環境、彼らの活動相互の関係を理解することである。

②の「批判的な分析能力」(Fähigkeit zur kritischen Auseinandersetzung)、「美的判断」(ästhetisches Urteil)も、頻繁に挙げられている目標のひとつである。その際重要なことは、作品または上演の本質的な特色について生徒の意識を覚醒させること、そして生徒たちが自らの作品または第三者の作品を評価するにあたり必要な「批判的な判断力」を発達させることである。

③の「文化的遺産」(Kulturerbe)に対する感受性も、ほとんどすべての国で共通している。場合によっては、この目標は文化的アイデンティティーの発達と関連付けられている。様々な文化様式の学習により、生徒たちはある国の市民として、あるいはある集団の構成員としての自覚をもつことになる。文化的遺産に対する理解は、芸術作品に触れ、様々な時代の芸術作品にみられる特徴を知り、特定の芸術家の作品(場合によっては、ある特定のレパートリーや「芸術的な規範」)を分析することにより深まる。

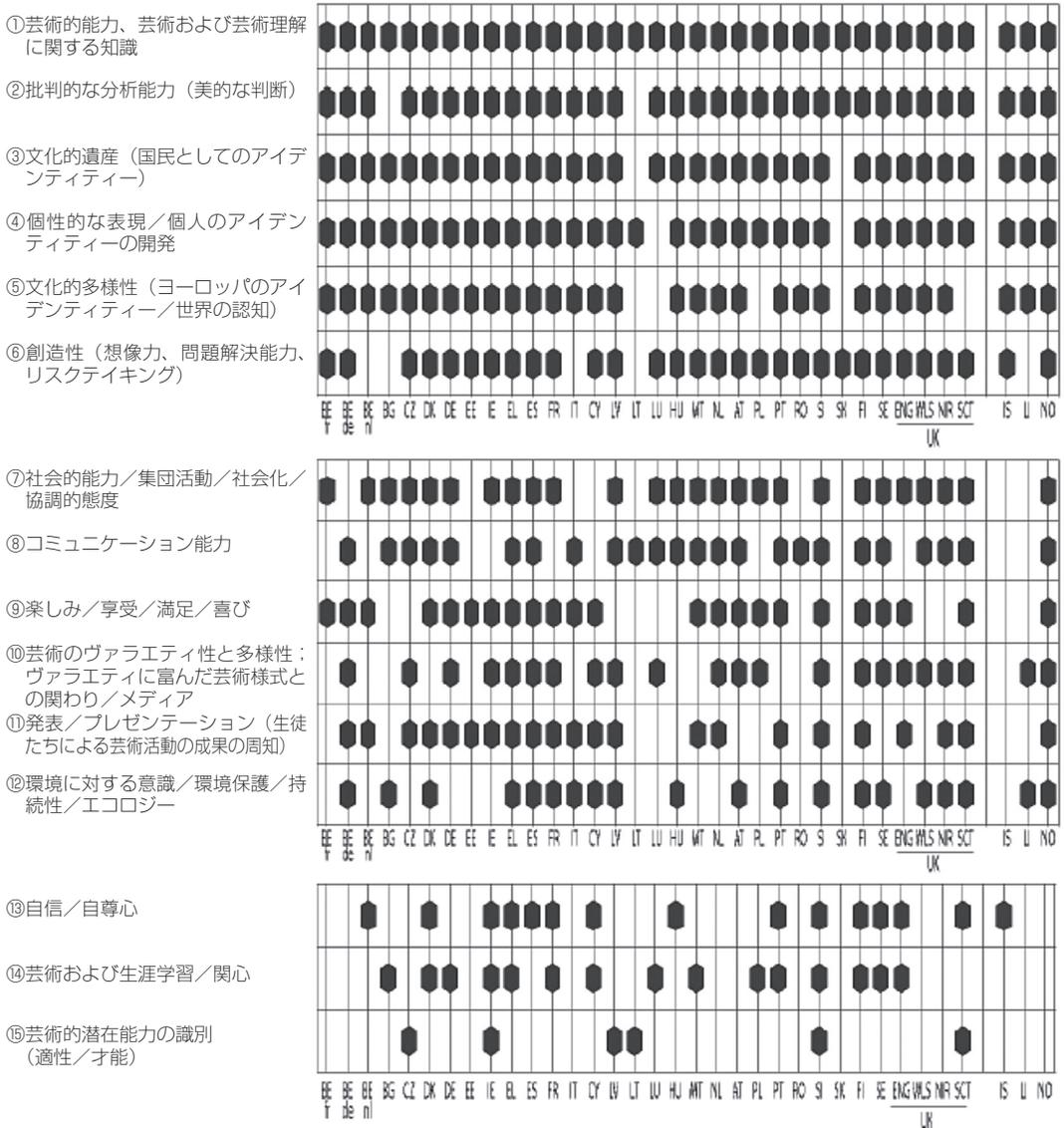
④の「個性的な表現」(individueller Ausdruck)の開発、「個人のアイデンティティー」(Individuelle Identität)も広くゆきわたっている目標である。

⑤の「文化的多様性」(kulturelle Vielfalt)の理解も、大部分の国のカリキュラムのなかで取り上げられている。芸術による「文化的多様性」の促進は、異なる国々や文化集団に対する文

4 英語版では、「カリキュラム」となっている。

5 以下の記述は、„Kunsterziehung“, S15f. を要約したものである。

図1 各国の「教授プラン」(カリキュラム)に掲げられた芸術教育の目標(初等教育と前期中等教育, 2007/08年)



(注) 各国の左側が初等教育の目標、右側が前期中等教育の目標。

[凡例]

各国の略語は以下のとおりである(図2以下においても同じ)。BE fr:ベルギー(フランス語圏)、BE de:ベルギー(ドイツ語圏)、BE nl:ベルギー(フラマン語圏)、BG:ブルガリア、CZ:チェコ、DK:デンマーク、DE:ドイツ、EE:エストニア、IE:アイルランド、EL:ギリシャ、ES:スペイン、FR:フランス、IT:イタリア、CY:キプロス、LV:ラトヴィア、LT:リトアニア、LU:ルクセンブルク、HU:ハンガリー、MT:マルタ、NL:オランダ、AT:オーストリア、PL:ポーランド、PT:ポルトガル、RO:ルーマニア、SI:スロヴェニア、SK:スロヴァキア、FI:フィンランド、SE:スウェーデン、UK-ENG:英国(イングランド)、UK-WLS:英国(ウェールズ)、UK-NIR:英国(北アイルランド)、UK-SCT:英国(スコットランド)、IS:アイスランド、LI:リヒテンシュタイン、NO:ノルウェー

【出典】 „Kunsterziehung“, S.19.

化的な遺産と現代的な様式の理解を高めることになる（一部は、ヨーロッパ文化に明確に関連付けられている）。

⑥の「創造性」(Kreativität) は、すべての国が挙げているわけではない（5か国⁶では含まれていない）。芸術的な手段を用いて、子どもの個性的な表現能力を開発することは、子どもの情緒安定と密接な関係にある。このタイプの目標は、あらゆる芸術様式のなかでも、とくに美術と結び付いている。

次の⑦から⑮の学習目標は、大きく2つのカテゴリーに分類される。ひとつは、必ずしも芸術特有のものとは限らない一般的な目標、もうひとつは、明らかに芸術教育と関連した芸術特有の目標である。

一般的な目標として、⑦の「社会的能力」(Sozialkompetenz) の開発が挙げられる。この目標は26か国で取り上げられている。一般にこの目標は、表象芸術や、とくに演劇において設定されている。

⑧の「コミュニケーション能力」(Kommunikationskompetenz) の促進と⑨の「楽しみ／享受」(Spaß/Vergnügen) の獲得は、それぞれ24か国、23か国のカリキュラムに見られる。前者は、とりわけ表象芸術（音楽、演劇と舞踊）とメディア芸術で設定されている。後者は、あらゆる芸術様式と結びついている。

⑫の生徒の「環境意識」(Umweltbewusstsein) の覚醒は、20か国で挙げられている。この目標の達成は、物質的環境の価値判断や、芸術のなかで使用されている問題解決の結果に関する知識と環境保全の責任を伴っている。

⑬の芸術活動による「自信」(Selbstvertrauen) あるいは「自尊心」(Selbstwertgefühl) の促進が挙げられているケースは少ない（15か国）。

一方、芸術と関連した特殊な学習目標として挙げられているのは、⑩の「ヴァラエティに富んだ芸術様式との関わり」(Beschäftigung mit verschiedenen Kunstformen) と⑪の「発表／プレゼンテーション」(Aufführung/ Präsentation) 能力である（いずれも22か国）。このなかには、様々な芸術的表現様式の体験、発表する能力、芸術作品を紹介する能力が含まれる。

⑭の「生涯学習／関心」(lebenslanges Lernen/Interesse) は、芸術的な学校外活動に参加するように生徒を鼓舞すること、またそうした関心を生涯にわたり維持することを意味している。15か国でこうした内容が盛り込まれている。⑮の「芸術的潜在能力の識別」(Ermittlung musischer Potenziale) が含まれているのは6か国である。

上述の報告書にもとづき、各国に見られる動きを見てみよう⁷。フランスでは『学校制

6 調査対象国は、前述のようにEU27か国とノルウェー等3か国の30か国であるが、ベルギーについては、ベルギー（ドイツ語圏）、ベルギー（フラマン語圏）、英国については、英国（イングランド）、英国（ウェールズ）、英国（北アイルランド）、英国（スコットランド）に区分して記載されている。したがって、本文中の国の数の合計は35となっている。以下、具体的な国名は図1を参照。

7 以下の記述は、„Kunsterziehung“, S21f. に拠る。

度の未来に関するガイドラインおよび計画』(Loi d'orientation et de programme pour l'avenir de l'école) (2005年4月)にしたがい「義務教育で保証しなければならないことは、生徒誰もが一連の知識と能力を含む共通基盤の発展に必要な手段を入手することである」とされている。このなかで芸術教科では、「社会および市民社会に適応する能力」(soziale und zivilgesellschaftliche Kompetenz)と「自立性と自発性」(Selbstständigkeit und Eigeninitiative)という2つの能力の獲得を保証するものであるとされている。

スペイン、スロヴェニア、英国(イングランド)、ノルウェーのカリキュラムでは、一方で生徒の革新的な能力や創造性の促進と、他方で「企画的思考」を支援するという意義とが関係付けられている。英国(スコットランド)では、こうした目標が共同作業や協調性の促進により芸術と関わる形で達成されるとして、「教育における創造性」(Creativity in Education)審議会文書(2001年)のなかで、「創造性は、子どもの教育および学習環境の面から捉えられねばならず、表現志向の芸術様式に限定されてはならない」としている。

ドイツ、キプロス、オーストリア、スロヴァキアでは、生徒個人の「能力」(Fähigkeiten)「スキル」(Kompetenzen)、「関心」(Interessen)、「才能」(Begabungen)が、とくに重視され、これらの目標が明文化されている。一方、ポーランドとポルトガルでは、創造性に関連した文化的ファクターとこうした目標が関連付けられている。オランダではこのような目標は、一般的であると同時に具体的に言及されている。

2 芸術教科の位置づけ

次に、芸術教科の位置づけについて見てみたい。

(1) 区分された教科か、統合された教科か？

芸術、芸術教育といった具合に、美術、音楽、演劇、舞踊等を包括したひとつの教科として教授している国と、美術、音楽、演劇を含む国語(home language)、舞踊を含む体育というように、別個の教科として教えられている国の2つのケースがある。

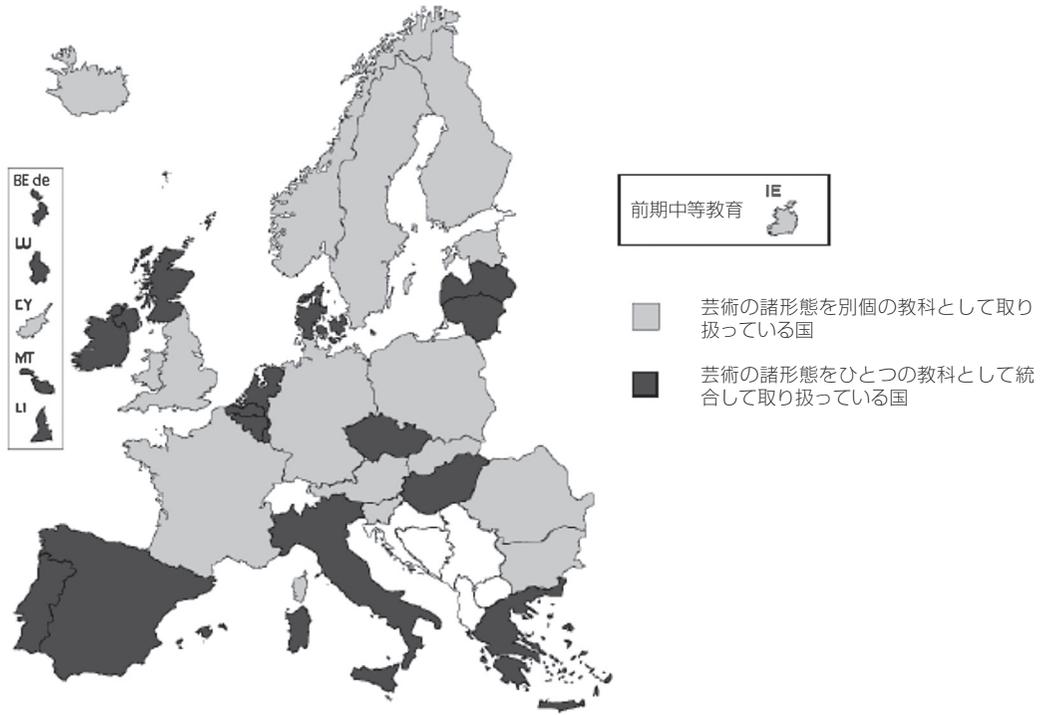
図2は、芸術の諸形態ごとに区分された教科か、それともひとつに統合された教科かを一覧にしたものである。

およそ半数の国では、各芸術教科のカリキュラムは別個に扱われている。残りの国では統一的授業分野としてとして扱われている。

なお、すべての国で、音楽と美術の授業は行われている。その他、多くの国では、さらに演劇、舞踊、工芸がカリキュラムに記載されている。12か国ではメディア芸術が教科として提供されている。建築が5か国で芸術教科のうち必修となっている⁸。

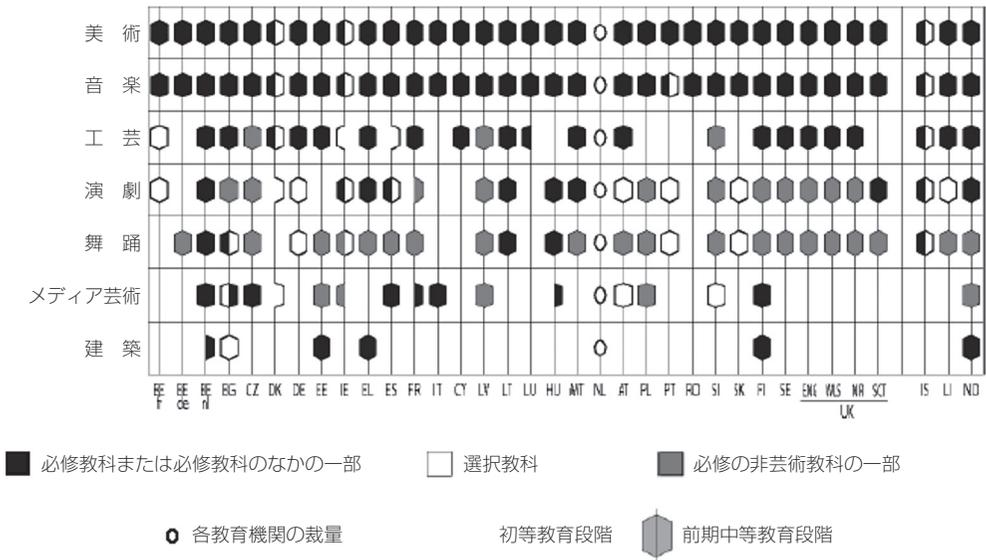
8 „Kunsterziehung“, S31f.

図2 別個の教科の国と統合された教科の国（初等教育と前期中等教育，2007/08年）



【出典】 „Kunsterziehung“, S.25.

図3 「教授プラン」で取り上げられている芸術分野（初等教育と前期中等教育，2007/08年）



【出典】 „Kunsterziehung“, S.27

(2) 必修教科か選択教科か？

次に必修教科か選択教科かを見ていこう。図3は、その教科内容が教授プランのなかで必修となっているかどうかを示したものである。

特色をまとめると次のようになる⁹。音楽と美術は、すべてのヨーロッパ諸国で、義務教育で教えられている。工芸、演劇、舞踊も、大多数の国で必修である。演劇と舞踏は、他の必修であるが芸術教科ではない教科、すなわち文学、体育で教えられる。かなりの国では、カリキュラムにメディア芸術が含まれる。建築が提供される例は少ない。

(3) 年間の履修時間

芸術教科に向けられる最低履修時間は、比較的少ない。とくに前期中等教育においてそうである。

どのくらいの時間が芸術にあてられているかを見ると¹⁰、初等教育のレベルでは約半数の国が50～100時間、前期中等教育では時間数は減少し、約半数の国が年間約25～75時間となっている。国による相違も顕著で、ルクセンブルクでは最高でも36時間、一方、ポルトガルでは165時間まで達している。

初等教育のレベルでは、言語教育、算数、科学（自然科学、社会科学の教科が個々に教えられ）より少ない。しかし大多数の国では、芸術教育は外国語や体育よりも多い。

前期中等教育では、芸術にあてがわれる時間は他の教科と比較して少ない。外国語だけでなく体育よりも少なくなっている。

図4は、各国の芸術教科の学習時間を示したものである。

3 芸術科の教員

ここでは、芸術関係の授業を専科教員 (Fachlehrer) が教えているか、それとも専科教員をとくに置かず、ジェネラリスト教員 (Lehrkräfte mit Zuständigkeit für alle Fächer) が教えているか、また教員養成ではどのような内容が教えられているかを見ていく¹¹。

(1) 専科教員とジェネラリスト教員

専門の芸術家が、初等教育および前期中等教育のレベルで教育にあたることはほとんどない。たいていの国では、芸術教科を教えるために、専門の芸術家は教員養成を受けていなければならない。ただし例外もある。若干の国では、臨時的に教員資格をもたない、あるいは教員養成を受けていない専門の芸術家に教員養成を担当させることを許している。

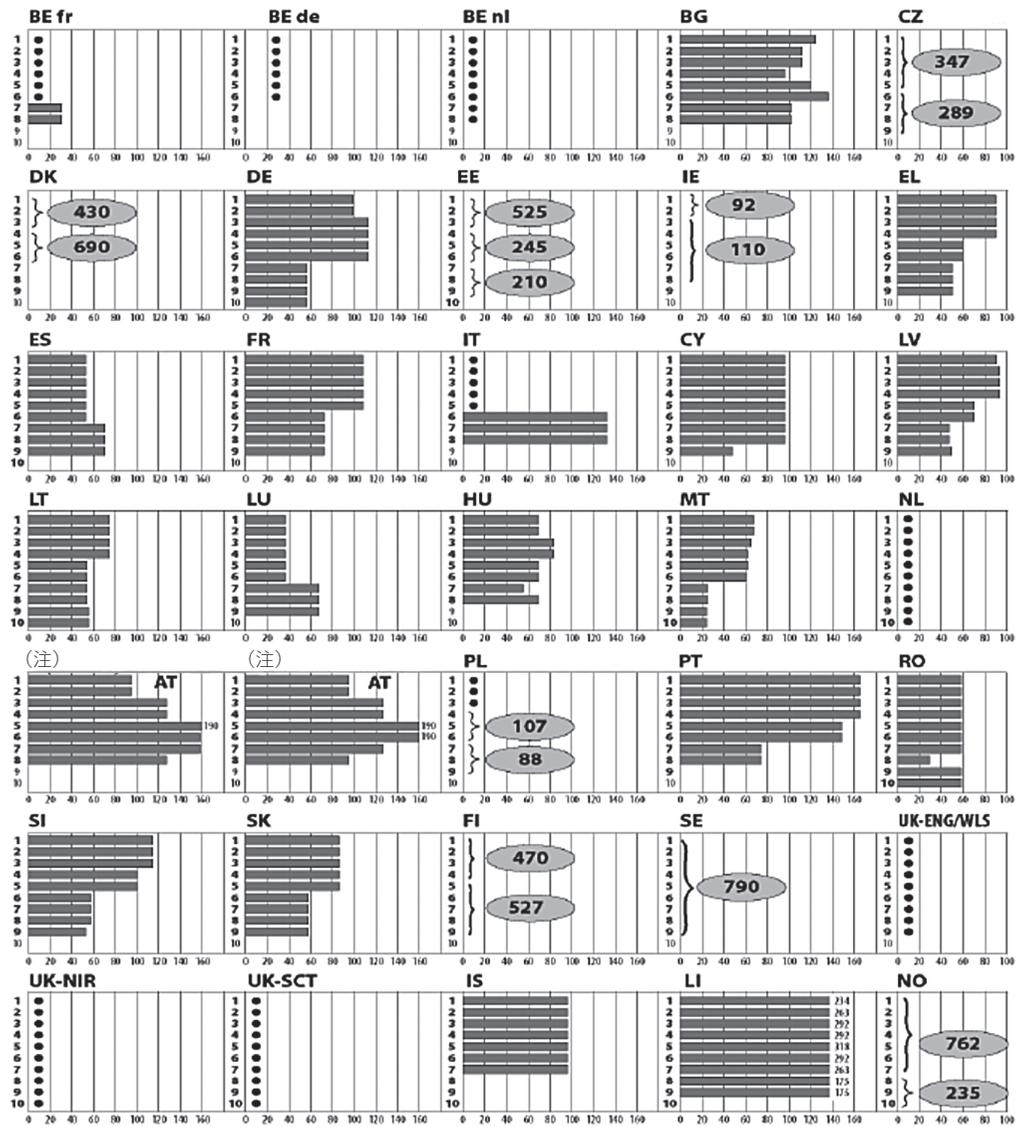
初等教育では、芸術教科の専科教員は置かれていない国が多い。通常、ジェネラリスト教員

9 Report on arts and cultural education at school in Europe, MEMO/09/448

10 „Kunsterziehung“, S.77f.

11 以下の記述は、„Kunsterziehung“, S.65ff. に拠る。

図4 芸術教科の学習時間（初等教育と前期中等教育，2007/08年）



● 必修教科であるが履修時間はフレキシブル } n 複数学年を合計した時間数 ■ 1学年あたりの履修時間数

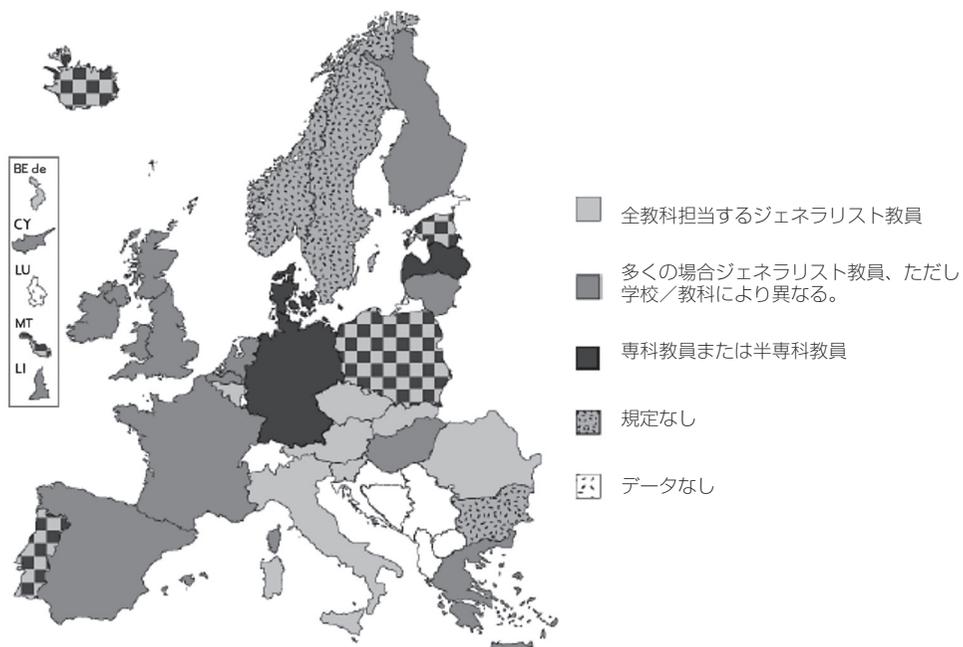
(注) オーストリアは、左側が国民学校+基幹学校+職業教育学校、右側が国民学校+普通教育学校のデータを示す。
【出典】 „Kunsterziehung“, S.30

が担当している。したがって教員は、芸術教科だけでなく授業教科の大半を担当している。

中等教育レベルでは、芸術教科は専科教員により教授される。芸術教科を教える教員は、教員になる前に特定の芸術教科における実演スキルが要求される。

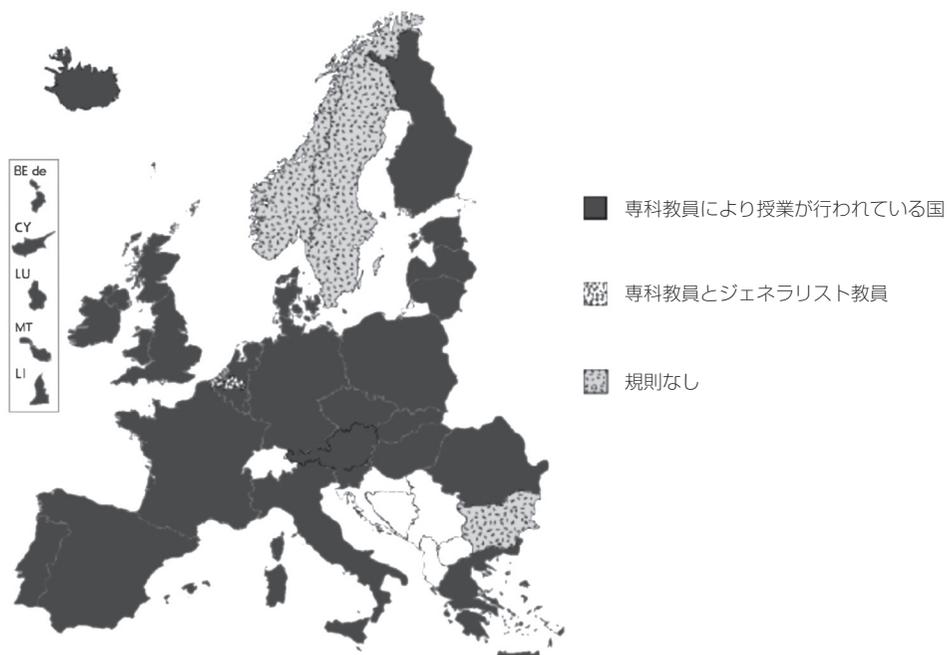
図5は初等教育段階、図6は前期中等教育段階において、それぞれ芸術関係の授業を専科教

図5 専科教員が教える国とジェネラリスト教員が教える国 (2007/08年)



【出典】 „Kunsterziehung“, S.66

図6 前期中等教育の芸術教員 (2007/08年)



【出典】 „Kunsterziehung“, S.67

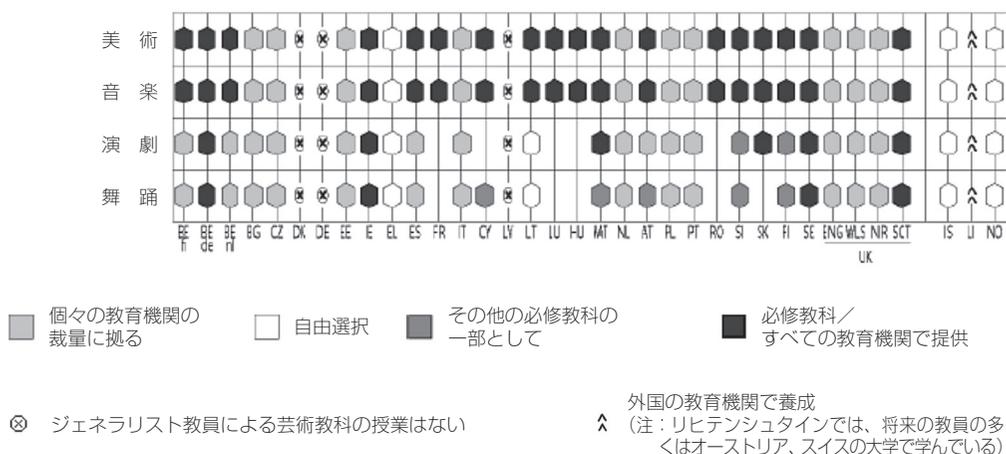
員が担当しているか、ジェネラリスト教員が教えているかを各国ごとに一覧したものである。

(2) 教員養成で学習する内容等

(i) ジェネラリスト教員

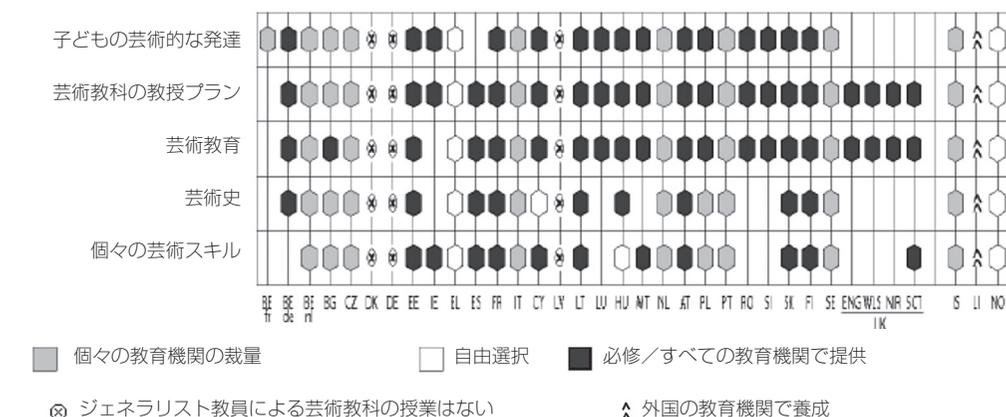
ジェネラリスト教員の養成の場合、大学の教員養成課程でどんな芸術教科が学習されるかを、各国ごとにまとめたのが図7である。図8は、ジェネラリスト教員の養成における教育テーマの一覧である。たいていの国のジェネラリスト教員は、教授プランに定められた芸術分野の養成を受けているが、若干の国では、すべての分野を教えられる教育を受けているわけではない。

図7 ジェネラリスト教員が教員養成で学習する科目 (2007/08年)



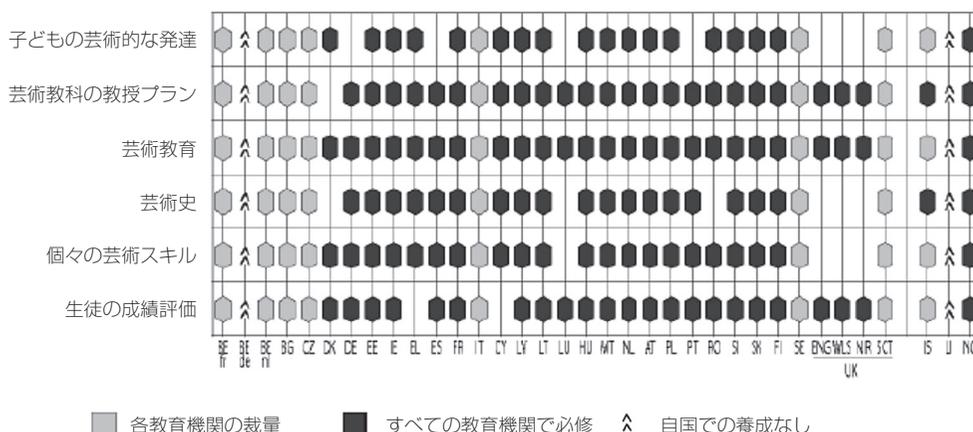
【出典】 „Kunsterziehung“, S.70

図8 ジェネラリスト教員の養成における教育テーマ一覧 (2007/08年)



【出典】 „Kunsterziehung“, S.72

図9 専科教員の養成における教育テーマ一覧（2007/08年）



【出典】 „Kunsterziehung“, S.73

(ii) 専科教員

専科教員の養成における教育テーマは、図9のとおりである（音楽、美術の専科教員の場合）

II ドイツの音楽科教育ーギムナジウムの音楽教育

以上、広くヨーロッパ各国において、音楽を含む芸術教育がどのように行われているかを見てきた。以下においては、ドイツのギムナジウムを例に、音楽の学習内容と、実際にアビトゥーア試験でどのような問題が出題されたかを紹介する。

まず1では、バイエルン州を例に、同州のギムナジウムの教授プラン（学習指導要領）のなかで音楽がどのように記述されているかを見る。次に2では、まずアビトゥーア試験問題の出題基準について、文部大臣会議がとりまとめた「アビトゥーア試験の統一的試験基準」のなかから音楽のアビトゥーアについてどのように記載されているかを概観する。次に、バイエルン州を例に、同州で今年（2010年）に出題された問題の一部を訳出して紹介する。

1 音楽科の学習事項ーバイエルン州の教授プランから

ドイツは、「はじめに」でも述べたように連邦制の国家であり、学習指導要領も各州の文部省により策定されている。学習指導要領に相当するドイツ語も各州により異なるが、一般に教授プラン（Lehrplan）と呼ばれている。表1と表2は、バイエルン州のギムナジウムの教授プランのなかから「音楽科」の箇所を訳出したものである。

表 1: 音楽科の学習——ギムナジウムの教授プランから (バイエルン州)

主要事項
<p>音楽科は、以下の事柄を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に芸術的実践の喜びを伝え、生徒の経験の範囲を広げる。 ・全学年共通の歌唱や楽器演奏を通して、またそうしたグループ活動に適応することにより、人格形成に寄与する。 ・メディアとの関わりが増える現代において美的意識の啓発と判断能力の獲得を促進する。 ・多様な音楽との出会いを通して、真の文化理解ならびに、理解と感覚による体験とのバランスに必要な基盤を作る。 ・文化・時代・社会などの背景に移り変わる諸関連を明らかにする。 ・他教科、とくに芸術やドイツ語と関連して、人格形成、美的教育、文化的教育に寄与する。
方法
<p>生徒はあらゆる角度から音楽を学び、様々な指導法がいかなるときも相互に関連している：生徒が歌い、楽器を演奏し、音楽を体験し、聞き、音楽について熟考し、美的判断能力を養成する。</p>
構造
<p>授業内容を伝えるにあたり、第 5 学年から第 10 学年では「音楽と実践」、「音楽の背景」、「音楽とその基礎」という相互に密接な関連を持つ 3 テーマが扱われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 7 学年から第 10 学年の生徒は、バロックから 20 世紀に至るヨーロッパ音楽史の各時代について実例を用いて学習する。 ・音楽が中核教科 (Kernfach) である音楽ギムナジウムにおいては、教授プランの内容は目的に適った補充がなされ、さらに全生徒が一つの楽器を習得する。 ・第 11 学年と第 12 学年では、様々な主題領域に亘り音楽と縦断的な取り組みができ、したがって既に前年度の学年で習得した知識の幅は、独自に学習を重ねることで広がる。 ・合唱やオーケストラのようなアンサンブルに参加することは、学習現場である学校との一体感に寄与するのみならず、創造的な余暇の過ごし方の基本を築くことにもなる。

【出典】 Bayerisches Staatsministerium für Unterricht und Kultus, *Der Lehrplan für das Gymnasium in Bayern im Überblick*, S.56.

2 音楽科のアビトゥーア試験

(1) 文部大臣会議によるアビトゥーア試験の統一的基準

アビトゥーア試験は、ギムナジウム卒業時に行われるギムナジウムの修了試験であると同時に、大学入学資格試験でもある。アビトゥーア試験は、各州によって実施されるもので、連邦全体で行われる統一試験ではないが、いずれの州でアビトゥーア試験に合格しても、そこで得られた資格はすべての州で有効である。文部大臣会議では、各州がアビトゥーア試験問題の作成の基準について、「アビトゥーア試験の統一的試験基準」(Einheitliche Prüfungsanforderungen in der Abiturprüfung, EPA) を取りまとめている。各州は、この EPA にしたがってアビトゥーア試験問題を作成する。表 3 は、音楽科の出題基準のなかから、その一部を訳出したものである。

表2：音楽の学習事項（バイエルン州：ギムナジウム）

学年	音楽の実践	音楽の背景	音楽とその基礎
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌曲、カノンと音楽劇 ・ 体験として楽曲の抜粋を聞く ・ 学校行事のためのクラスコンサートまたは企画を準備し開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な時代の3大作曲家たち ・ 童話や物語にまつわる音楽 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記譜法、単純な音階とリズム ・ 一般に使われる楽器
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌曲、ポップソング、黒人霊歌（発声をふくめて） ・ 単純な民族舞曲 ・ 視点に即した聞き方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記以外の様々な時代の3大作曲家たち ・ 歌曲、構成の解釈と作品鑑賞。例：「別れと憧れ」（Abschied und Sehnsucht） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音の空間の広がり ・ 調性の種類 長調と短調 ・ 単純な形式と音楽的な進行
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌曲と歌詞、例えばフォルクローレ、ロックやポップミュージック ・ リズム楽器の伴奏つきラテンアメリカの歌曲 ・ 音楽的な記憶力を養成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロック界の中心的な人物 ・ バロック期の人間と音楽：ヘンデル、バッハ ・ 音楽とニューメディア、MP3、インターネットの音楽 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バロック音楽の形式とジャンル。例：合奏協奏曲（コンチェルト グロッソ）、組曲、カンタータ ・ ラテン-パーカッション楽器 ・ 声の機能の仕方、声変わりりと声の表現可能性
8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な様式の歌謡および歌曲 ・ 独自の鑑賞態度を熟考する ・ 短いレポートを自主的に準備し、さらに原稿を見ずに発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様式の多様性からみたロックミュージックの成立、代表的な人物 ・ ウィーン古典派時代の音楽と社会：ハイドン、モーツァルト ・ 映画音楽 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロックミュージックの形式部分 ・ ソナタまたは交響曲における構成上の特徴
9	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロックソングと各国のフォルクローレ ・ 作品の全体を聞く ・ 音楽に関連した職業に関する情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクチュアルなロック及びポップミュージック ・ 19世紀の音楽の諸相。例：標題音楽または国民楽派 ・ 過去と現代の舞曲 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 19世紀の音楽の様式とジャンル、例えばキャラクター・ピース、交響詩、古い舞曲や新しい舞曲の典型的な特徴
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「背景のなかの音楽」領域の内容と関連した歌曲や音楽作品 ・ 聞きながら音楽的な関連を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヨーロッパ音楽文化の概観 ・ 音楽劇 ・ ジャズにおける多様な文化の出会い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽劇の要素。例：序曲、叙唱、アリア、ソング ・ 20世紀以降の音楽様式手法
11/12	<p>8つのテーマ領域：このテーマ領域の構想は大部分教科横断的であり、可能な限り多くの様式や時代の音楽を含む。歌い楽器を弾くことにより多くの内容が実践的に経験可能となる。「プロジェクト」は音楽に限定した主題の技法との広範な取り組みに適した可能性を作り、プロジェクトの展開もその都度与えられた状況に応じて異なる。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽と言語 ・ 音楽と宗教 ・ 政治理念に奉仕する音楽 ・ オーケストラの変遷 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽、演奏者、演奏一昔と今 ・ 音楽と伝統 ・ 1960年から現在に至る音楽 ・ プロジェクト 	

【出典】 Bayerisches Staatsministerium für Unterricht und Kultus, Der Lehrplan für das Gymnasium in Bayern im Überblick, S.57.

表 3：アビトゥーア試験の構成・内容（音楽）

基礎コースの教科と重点コースの教科における専門的な基礎教育	重点コースの教科における拡大と深化
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽及び音楽内在的な問題設定と歴史的問題設定を考慮した構造の解明 ・旋律法、リズム法、拍節法、強弱法、調性、構成、動機、主題、作曲技法、管弦楽法、記譜形式に関する基礎知識 ・時代、様式、ジャンル、形式、音楽家に関する基礎知識、基本的な鑑賞経験 ・客観的・主観的領域と関連した音楽に関する影響と表現内容の解釈および評価；音楽に関して根拠をあげて判断する能力の開発 ・ヨーロッパとは異なる音楽文化領域の知識 ・音楽や音楽的メディア作品の伝達方法と方策と機能に関する知識、教科横断的に結ぶ手がかりを開発すること；独自の文化及び実生活に音楽を関連させること ・簡単な目標にしたがって音楽的構成要素を根拠づけ、応用し、展開させること；分析や解釈と関連づけながら音楽的構成部分を声楽あるいは器楽別に明確にすること；独自に習得した音楽作品の様式にしたがって再現すること ・方法省察と独自性 	<ul style="list-style-type: none"> ・分析の方法の適用にあたり、複雑な連関と高度な独自性における音楽の解明 ・様々な専門用語や音楽構成上の深い知識の活用 ・様式、ジャンル、形式、作曲家を概観する広範な知識、広い鑑賞領域、幅広い鑑賞経験 ・音楽心理学的、音楽美学的、哲学的問題に関する音楽研究、音楽学研究の手がかり ・様々な音楽文化に関する深い考察 ・音楽作品、音楽機能、音楽受容などに関する深い省察、場合により、感性、精神史、コミュニケーション情報などの知識 ・独自の根拠ある解釈と構成想像力の開発；様々な音楽的表現能力の発揮 ・様々な技法を熟考しながら独自に駆使すること、音楽を構成するうえで独自性を拡大すること

【出典】 Beschlüsse der Kultusministerkonferenz, Einheitliche Prüfungsanforderungen in der Abiturprüfung Musik, Beschluss der Kultusministerkonferenz vom 01.12.1989, i. d. F. vom 17. 11. 2005, S. 9.

なお、ギムナジウム上級段階では、不可欠の基礎知識を身につける「基礎コース」(Grundkurs)の教科と、自分の能力に応じてより深い学問的準備をする「重点コース」(Leistungskurs)の教科が用意されている。生徒は「重点コース」の教科の中から2教科を選択する。アビトゥーア試験は、「重点コース」で選択した教科を含む4ないし5教科で実施される。音楽大学に進学する者以外でも、音楽をアビトゥーア試験教科として選択することが可能となっている。

(2) アビトゥーア試験の出題例

ここでは、2010年にバイエルン州で行われたアビトゥーア試験の音楽の問題（重点コースで音楽を選択した生徒のための問題）を訳出してみた¹²。問題は4題出題される。生徒は、4つの問題のうち1題を選択して解答する。解答時間は演奏を聞く時間を除いて210分間である。満点は60点である（各問の終わりに配点を記した）。

問題 I

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (Johann Sebastian Bach, 1685–1750)

「主よ、わが喜びよ」 BWV 227, 1723 年作曲：

1~19 小節 「イエスよ、私の喜びよ」(譜例 1)

258~276 小節 「去れ、あらゆる宝」(譜例 2)

210~257 小節 「しかしお前たちは肉欲にあるものでなく」(譜例 3)

フェーリクス・メンデルスゾーン・バルトルディ (Felix Mendelssohn Bartholdy, 1809~1847)

「イエスよ、私の喜びよ」 1828 年作曲：1~101 小節 (譜例 4)

バッハとメンデルスゾーンの同名の曲は、教会歌「イエスよ、私の喜びよ」(歌詞：ヨーハン・フランク (Johann Franck, 1653) の旋律をもとにしている。

譜例 1 と 4：

イエスよ、私の喜びよ、	Jesu, meine Freude,
私の心の楽しみ、	meines Herzens Weide,
イエスよ、私の誇りよ、	Jesu, meine Zier,
ああ、どれほど長く、いかに長く、	ach wie lang, ach lange
私の心は落ち着かず	ist dem Herzen bange
あなたを求めることか！	und verlangt nach dir!
神の子羊、私の花婿よ、	Gottes Lamm, mein Bräutigam,
あなたのほかにこの世では	außer dir soll mir auf Erden
愛しい方となるものはない。	nichts sonst Liebbers werden.

12 „Abiturprüfung 2010, Musik als Leistungskursfach“. 試験問題の PDF ファイルは、Leistungskurs Musik [http://musby.de/html/lk.htm] から入手した。なお、訳語はすべて仮訳である。

譜例 2 :

去れ、あらゆる宝！	Weg mit allen Schätzen!
あなたが私の楽しみ、	Du bist mein Ergötzen,
イエスよ、私の喜び！	Jesu, meine Lust!
去れ、空虚な榮譽、	Weg ihr eitlen Ehren,
私はお前たちのことばは聞きたくない	ich mag euch nicht hören,
私はお前たちを知らぬまま！	bleibt mir unbewußt!
悲惨、苦境、十字架、辱め、そして死に	Elend, Not, Kreuz, Schmach und Tod
たとえ多く苦しみ悩もうとも、	soll mich, ob ich viel muß leiden,
私をイエスから引き離なさせはしない。	nicht von Jesu scheiden.

設問

1 次の曲をそれぞれ1回ずつ聞きなさい。

バッハのモテット「イエスよ、私の喜びよ」から1~19小節（「イエスよ、私の喜びよ」、譜例1）と258~276小節（「去れ、あらゆる宝」、譜例2）

教会歌を編曲したこの2作品の根本的な共通点と相違点を挙げなさい。（5点）

2 次の設問2.1~2.3は、バッハのモテット「イエスよ、私の喜びよ」の258~276小節（「去れ、あらゆる宝」、譜例2）を指している。

2.1 270~271小節の和音を特定し（3拍）、各拍ごとに2和音を挙げなさい。（6点）

2.2 バッハがこの270~271小節の歌詞（3拍）を協調するのに用いた音楽的手法を挙げなさい。なお設問2.1の結果を加えなさい。（評点3点）

2.3 258~276小節（「去れ、あらゆる宝」譜例2）に関する既知の版(A)と別の演奏(B)をA~B~A~B順に聞いてから、両方の解釈の違いを記述しなさい。（4点）

3 次の設問3.1~3.3と関わるバッハのモテット「イエスよ、私の喜びよ」の210~257小節（「しかしお前たちは肉欲にあるものでなく」〔歌詞：新約聖書 ローマ人への手紙 8、9〕譜例3）を1回聞きなさい。

譜例 3 :

しかしお前たちは肉欲にあるものでなく、霊にある者が、

お前たちのなかに他の神の霊が宿る。

しかしキリストの御霊をもたない者は、キリストのものではない。

Ihr aber seid nicht fleischlich, sondern geistlich,

so anders Gottes Geist in euch wohnt.

Wer aber Christi Geist nicht hat, der ist nicht sein

- 3.1 テノール (210~213 小節、1 拍) の主題の構成を記述しなさい。バッハがこの主題を基礎として一種のフーガ的導入部を築いたことを証明しなさい。(5 点)
- 3.2 バッハが 224~245 小節、3 拍の中で、課題 3.1 で扱う主題を再度採り上げる一方、しかし新しい主題構想に取りかかっていることを、二つの例ごとに示しなさい。(6 点)
- 3.3 バッハが最終章 (246 [上拍] ~257 小節) をどのような手法で仕上げたが記述しなさい。(5 点)
- 4 「モテット様式は、節の連続という原則に基づいている。各節では歌詞の意味やデク라마ツィオーンの統一がはかられている。しかし各ひとまとまりの歌詞では、音楽的に独自の主題 (...) が取り扱われている。各節の主題は他のものと異なり、その独自性が特徴的である。さらに全体に亘り楽法上様々な構成からなっている。」
音楽学者クラウス・ホフマンの形式観がここに採り上げられているバッハのモテット「イエスよ、私の喜びよ」各節 (譜例 1~3) にどの程度当てはまるか論じなさい。先行課題の結論とも絡めて論じなさい。(7 点)
- 5 作曲家メンデルスゾーンも教会歌「イエスよ、私の喜びよ」を基に同名のカンタータを作曲しており、これは次の課題 5.1~5.3 に関わっている (譜例 4)。
メンデルスゾーンのカンタータ「イエスよ、私の喜びよ」(譜例 4) の 1~101 小節を 2 回聞きなさい。
- 5.1 1~52 小節、1 拍の中で器楽法の機能四つについて論じなさい。(8 点)
- 5.2 9~100 小節の声楽パートの構成を概説しなさい。(4 点)
- 5.3 メンデルスゾーンのカンタータ 54~148 小節 (譜例 4) (102 小節からは歌詞なし) を 2 回聞いて、メンデルスゾーンが 101 小節以降で調子を変えるために用いた音楽的構成手法を記述しなさい。(4 点)
- 6 メンデルスゾーンは、彼の作品の一つについて次のように書いている。
「バッハとの類似性が見られようが、私は (...) 何も肯定はできない。なぜならば、わたしがどのような気分であったかを書いたわけで、たとえ文字どおりバッハと同様な気分になったとしても、その方がまじだからである。」
教会歌「イエスよ、私の喜びよ」のバッハによる編曲 (「去れ、あらゆる宝」、譜例 2) とメンデルスゾーンの同様の作品 (譜例 4) と、どの程度類似性があるか説明しなさい。先行課題の結論も絡めて論じなさい。(3 点)

以上が、4 題のうちの 1 題である。なお、参考までに、2010 年の残りの 3 題のテーマは、次のとおりであった。

問題Ⅱ

ヨーゼフ・ハイドン (Joseph Haydn, 1732-1809) の弦楽四重奏曲ト長調 op.33 Nr.5 Hob. III : 41、1781 年作曲 第1 楽章 (譜例 1)

ルードヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (Ludwig van Beethoven, 1770-1827) 弦楽四重奏曲イ短調 op. 132, 1825 年作曲 第1 楽章 (譜例 2)

問題Ⅲ

ドメニコ・スカルラッチィ (Domenico Scarlatti, 1685-1757) の「スターバト・マーテル」から「ああ、愛の泉なる母よ」。1715 年頃の作曲 (譜例 1)

アントニン・ドヴォルザーク (Antonín Dvořák, 1841-1904) の「スターバト・マーテル」から「ああ、愛の泉なる母よ」。op.58, 1~4 小節は 1876/1877 年に作曲 (譜例 2)

フランシス・プーランク Francis Poulenc (1899-1963) の「スターバト・マーテル」から「ああ、愛の泉なる母よ」。1~38 小節は 1950 年作曲 (譜例 3)

問題Ⅳ

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (Wolfgang Amadeus Mozart, 1756-1791) のピアノソナタ ヘ長調 KV 280、2 楽章、アダージョ 1775 作曲 (譜例 1)

アルヴォ・ペルト (Arvo Pärt, 1935~) のモーツァルト - アダージョ 1992/1997 作曲 (譜例 2)

アルフレート・シュニットケ (Alfred Schnittke, 1934-1998) のモーツァルト風ア・ラ・ハイドン (mozart à la haydn) 1~53 小節 1977 年作曲 (譜例 3)

(3) 過去のアビトゥーア試験のテーマ

以上、今年 (2010 年) に行われたアビトゥーア試験問題を紹介した。参考までに、バイエルン州で、1982 年から 2009 年までに出题されたテーマを一覧表にした (表 4 を参照)。

おわりに

最後に、全体を通して気づいた点をいくつか記して、とりあえずのまとめとしたい。

- わが国の小・中・高等学校における音楽の目標は、表 5 のとおりである。I で見たヨーロッパ諸国の音楽の目標とほぼ重なっている。
- 本稿では言及することができなかったが、前述の報告書では、「芸術の世界、学校外の活動との連携による芸術教育の促進」について取り上げられている。このなかで紹介されている芸術教育の促進を目的とする様々なイニシアティブやプロジェクトに関する事例は、わが

表 4：音楽のアビトゥーア試験に取り上げられたテーマ一覧（バイエルン州：1982～2009年）

2009年
1. Kyrie (doppelchörig); F. Martin, Messe für zwei vierstimmige Chöre; Hindemith, Messe 2. Sweelinck, Fantasia; C.P.E. Bach, Fantasia; E. Carter, Night Fantasies 3. J.S. Bach, 3. Brandenburgisches Konzert; I. Strawinsky, Concerto in Es 4. "Die drei Zigeuner": Franz Liszt (Sololied und Bearbeitung), O. Schoeck
2008年
1. "Magnificat": Choral, Monteverdi, Mozart, Pärt 2. Händel, "Israel in Ägypten"; Mendelssohn-Bartholdy, Der 114. Psalm 3. Buxtehude, Ciacona BuxWV 137; Ravel, Passacaille (Klaviertrio); Webern, Passacaglia op. 1 4. Fanny Hensel, "Gondellied" und "September. Am Flusse"; Poulenc, "Barcarolle" aus "Napoli"
2007年
1. "Ave maris stella": Choral, T. L. da Vittoria, Missa/Kyrie, Trond Kverno (1976) 2. Bach, Johannespassion, Chor "Kreuzige", Arioso "Betrachte", Penderecki, Lukaspassion 3. "An den Mond": Franz Schubert, D 296, Hans Pfitzner, op. 18 4. Beethoven, Klaviersonate "Les Adieux", K. A. Hartmann, Sonate "27. April 1945" (Tonbeispiel, Notenausschnitt), "Brüder, zur Sonne, zur Freiheit"
2006年
1. "Salve Regina": Gregorianischer Choral, Peter Philips (1560-1628), Claudio Monteverdi 2. Georg Muffat (1653-1704), Violinsonate D-Dur, W. A. Mozart, Violinsonate D-Dur, KV 306 (NMA) 3. "Auf Flügeln des Gesanges": Felix Mendelssohn-Bartholdy, Franz Lachner (1803-1890) 4. Dmitri Schostakowitsch, Präludium und Fuge Nr. 4; Frédéric Chopin, Prélude op. 28,4; Boris Blacher, Prélude XVI
2005年
1. J. S. Bach, Kantate "Jesu, der du meine Seele" BWV 78 (Eingangschor, Schlusschoral) 2. J. Brahms, Klarinettenquintett op. 115, Mozart, Klarinettenquintett KV 581, jew. 4. Satz 3. O. Schoeck, "Schlafen, schlafen" op. 14,4, A. Berg, "Aus: Dem Schmerz sein Recht", op.2,1 4. W. Rihm (*1952), "Deus passus", Tan Dun (*1957) Waterpassion after St. Matthew
2004年
1. John Wilbye: Madrigal "Lady, your words", G. Ligeti: "A long, sad tale" 2. Beethoven: Klaviersonate G-Dur, op. 14, 2, 1. Satz, Bagatelle B-Dur, op. 119,11 3. Wagner: Götterdämmerung, Verdi: Don Carlo (Ausschnitte) 4. Greg. Choral: Missa pro defunctis, Maurice Duruflé: Requiem
2003年
1. Palestrina und Pergolesi: Stabat mater 2. Bach: Violinsonate A-Dur, BWV 1015 3. Schubert und R. Strauss: Das Rosenband 4. Hans Krása: Passacaglia und Fuge für Streichtrio
2002年
1. Schütz: Die Himmel erzählen (Geistl. Chormusik), Haydn, Die Himmel erzählen (Schöpfung) 2. Beethoven: Symphonie Nr. 7, Allegretto 3. Brahms: Selig sind, die da Leid tragen (Deutsches Requiem) 4. Schumann: Märchenerzählungen, Kurtág: Hommage à R. Sch.

2001 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. Kyrie: Greg. Choral, In festis B. Mariae Virginis, Desprez, Missa de Beata Virgine, Mozart, Missa in C, KV 167 2. Monteverdi, Marienvesper, Nr. 9 "Audi coelum" 3. Frescobaldi, "Recercar cromatico" aus "Fiori musicali", Ligeti, Ricercare per organo (1953) und Coulée (1969) 4. Schubert: Winterreise (Im Dorfe, Mut), Zender "Schuberts Winterreise"
2000 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. Bach, Kantate "Nach dir Herr verlanget mich", BWV 150, Sinfonia, Coro 2, 6, 7 2. Mozart, "La clemenza di Tito", KV 621, Scena VIII, IX, X (2. Akt) 3. Claude Debussy, Streichquartett op. 10, 1. Satz 4. Bartók, Sonate für zwei Klaviere und Schlagzeug, 2. Satz
1999 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. Greg. Choral, Psalm 129, Orlando di Lasso, Sextus palmus poenitentialis, Pärt, De profundis 2. Beethoven, Streichquintett C-Dur, op. 29, 4. Satz, Presto 3. Chopin, Nocturne Nr. 9, H-Dur, Liszt, En rêve, Hindemith, Nachtstück aus op. 22 (Teilaufgabe hier) 4. Hanns Eisler, 3 Hölderlin-Fragmente aus dem "Hollywooder Liederbuch"
1998 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. Madrigal "Cor mio, deh, non languire" von Luzzaschi (16. Jhdt.) und Scarlatti 2. Mozart, Klaviersonate B-Dur, KV 333, 3. Satz 3. Mendelssohn-Bartholdy, Elias, Eingangsrezitativ und Chor "Hilf, Herr" 4. Dowland, Song "If my complaints", Britten, "Reflections on a song of Dowland"
1997 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. Josquin, Ave Maria; Verdi, Ave Maria aus "Quattro pezzi sacri" 2. Bach, Actus tragicus, Sonatina, Eingangschor, Chor "Es ist der alte Bund" 3. Haydn, Sinfonie Nr. 3, 1., 3. und 4. Satz 4. Schnittke, 3. Streichquartett, 1. Satz
1996 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. Monteverdi, "L'Orfeo" (Ecco pur, Tu se' morta, Ahi caso acerbo, Sinfonia) 2. C. P. E. Bach, Fantasia A-Dur, Wq 58,7, Fantasia C-Dur, Wq 61,6 3. Schumann, Streichquartett a-Moll, op. 41,1, 1. Satz 4. Gregorianischer Choral, Lamentatio Jeremiae Prophetae; Krenek, Lamentatio J.P.
1995 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. Jannequin, Orsus; Mendelssohn, Lerchengesang; Messiaen, Catalogue des Oiseaux 2. Händel, Concerto grosso F-Dur, Texte von Harnoncourt und Nägeli 3. Mozart, Maurerische Trauermusik; Hindemith, Trauermusik 4. Schumann, "Mein Wagen rollet langsam"; Strauss, "Waldesfahrt" (Lieder)
1994 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. Schütz, Ego dormio; Clemens non Papa, Ego dormio 2. C. P. E. Bach, Württembergische Sonate Nr. 6 für Clavier 3. Liszt, Gnomenreigen; Mussorgsky, Gnomus aus Bilder einer Ausstellung 4. Schostakowitsch; Streichquartett Nr. 3, 1. Satz

1993 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. Bach, Magnificat / Fecit potentiam und Suscepit Israel 2. Haydn, Sinfonie Nr. 101, "Die Uhr", Finale 3. Wagner, Walküre, G. Verdi, Rigoletto (Ausschnitte) 4. Rihm, Hölderlin-Fragmente für Gesang und Klavier (1976/77)
1992 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. "Benedicta es": Choral, Josquin-Motette, Palestrina-Messe 2. Beethoven, Klaviersonate e, op. 90, Schubert, Klaviersonate e, D 566 3. Brahms, Motette "Ich aber bin elend" und "O bone Jesu" 4. Bartók, Streichquartett Nr. 5, 1. Satz
1991 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. Greg. Choral "Sederunt", Perotin-Organum, Steve Reich, "Tehillim" 2. Mozart, Idomeneo (Ausschnitt aus 3. Akt, Rezitativ und Adagio) 3. Goethe, "Wer sich der Einsamkeit ergibt": Schubert, Schumann, Zelter 4. Webern, Kinderstück, Bartók, Mikrokosmos, Strawinsky, Fünf Finger
1990 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. Landini (Trecento-Madrigal), Ockeghem, Missa, Bach, "Vom Himmel hoch" 2. C.P.E.Bach, Sinfonie Nr. 4, Wq 182, 1. Satz und Thema des 2. Satzes 3. Beethoven, Klaviersonate op. 110, Finale 4. Bialas, Haydn-Fantasien (1980) und Haydn, Schöpfung (Chaos)
1989 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. Claudio Monteverdi, "Il ritorno d'Ulisse in patria", Monolog der Penelope 2. Drei Sololieder von J. Dowland (Awake, sweet love), C. F. Zelter (An die Entfernte), H. Wolf (Frage und Antwort) 3. Menuette von de Visée (Gitarre), Bach (Solovioline), Mozart (Serenade für Holzbläser), Schubert (Klaviersonate) 4. O. Messiaen, "Les eaux de la grâce" aus "Les corps glorieux" (Orgel) und Debussy "Reflets dans l'eau" aus Images.
1988 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. J. S. Bach, "Capriccio über die Abreise ..." und Johann Kuhnau, Biblische Sonate Nr. 6, "Jacobs Tod und Begräbniß" 2. Joseph Haydn, Konzert für Violoncello und Orchester, D-Dur 3. Robert Schumann, Klavierzyklus "Papillons" op. 2, Introduzione und Nummern 1, 6, 9, 10, 12 4. Béla Bartók, Divertimento, 3. Satz
1987 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. Heinrich Schütz, "Die Stimm des Herren", Kleines geistliches Konzert 2. Wolfgang Amadeus Mozart, Requiem (Introitus) und gregorianischer Choral 3. Johannes Brahms, Streichquartett op. 51,1, 1. Satz 4. Arnold Schönberg, Melodram Erwartung (Anfang und eine weitere Stelle)
1986 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. Guillaume Dufay, "Supremum est" und "Ave regina caelorum" 2. "Christe du Lamm Gottes" als Lied (in Luthers deutscher Messe), Kantatensatz und Orgelchoral (Bach) 3. Wolfgang Amadeus Mozart, "Die Hochzeit des Figaro", 7. Szene und Terzett 4. Karlheinz Stockhausen, Adieu für Bläserquintett / Text von Adorno

1985 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. Händel, Julius Caesar (Rez./Arie) und Pepusch, Beggars Opera 2. Antonin Reicha, Bläserquintett op. 91,11, A-Dur 3. Paul Hindemith, Messe für gemischten Chor a cappella (1963) 4. Olivier Messiaen, Le merle noir für Flöte und Klavier und Text "Technik meiner musikalischen Sprache.
1984 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. Arcadelt, Madrigal "O felice' occi miei", Monteverdi, Madrigal "A' un giro sol" 2. Schütz, Osterdialog 3. Haydn, Nelson-Messe, Kyrie 4. Bruckner, 7. Sinfonie, 1. Satz
1983 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. Conductus "Flos ut rosa floruit" (Notre-Dame-Epoche) 2. Vivaldi, Concerto grosso und Bach-Bearbeitung für 4 Claviere, Quantz, "Versuch" 3. "Die linden Lüfte sind erwacht" Liedvergleich Schubert / Mendelssohn-Bartholdy 4. Ligeti, Aus "Zehn Stücke für Bläserquintett"
1982 年
<ol style="list-style-type: none"> 1. Gregorianischer Choral "Pater noster", Willaert, "Pater noster" 2. Mozart, Streichquartett G-Dur, KV 387, 4. Satz 3. Brahms, "Vineta" (Chorsatz), Debussy, "La Cathédrale engloutie" 4. Penderecki, "Stabat mater", Gregorianischer Choral: Sequenz "Stabat mater"

【出典】 „Themen der Abituraufgaben im Leistungskurs Musik in Bayern seit 1982“
<http://www.musby.de/html/abiaufg.htm>

表 5：小・中・高等学校における音楽の目標

小学校
表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。
中学校
表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う。
高等学校
<p>【芸術科】</p> <p>芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。</p> <p>【音楽Ⅰ】</p> <p>音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。</p>

【出典】 小学校学習指導要領（平成 20 年 3 月告示）中学校学習指導要領（平成 20 年 3 月告示）高等学校（平成 21 年 3 月告示）にもとづき作成。

国にとって参考となろう¹³。

- 教育の世界も、いわゆる「グローバル化」の波にゆれている。OECD の PISA の結果も踏まえて、言語系、理数系の授業をより充実させることが求められてきた。そうしたなかで、どのようにして芸術教科の質を高めていくかが問われている。芸術教科と他の教科との相互関連だけでなく、上に述べた学校以外の機関との連携、芸術関連施設、芸術家たちとのパートナーシップをどのように確立していくかが課題であろう。
- II で紹介したバイエルン州の「教授プラン（音楽）」のなかで、「ドイツ語などの他教科と関連して、人格形成、美的教育、文化的教育に寄与する」といった文言が見られる。ドイツ語教育（言語教育）との関連のなかで音楽教育を位置づけている点も興味深い。
- こうした芸術系教科の教育と言語教育との連携を図っていく上で、言語教育のもつ意味を改めて見直し、そのあり方を再考することも求められよう。
- 最後に、II で見たドイツの事例のように、芸術大学に進学することを考えていない生徒でも、わが国で言えば大学入試に相当するアビトゥーア試験を芸術教科で受験できることなど、芸術教育の裾野を広げる意味でも注目される。

（本学教授＝ドイツ語担当）

13 „Kunsterziehung“, S35ff. を参照。たとえば次のような記述がある。

- ・ ベルギー、デンマーク、アイルランド、マルタ、オランダ、オーストリア、ポルトガル、フィンランドでは、とくに芸術教育を促進するための国の機関とネットワークが形成されている。
- ・ 多くの国は学校およびその他の機関がカリキュラム外の芸術活動を提供することを推奨している。ベルギー、チェコ、スペイン、イタリア、ラトヴィア、オーストリア、ポルトガル、フィンランドでは、国または地方政府が、全面的にまたは部分的に学校外の芸術活動の財政援助をしている。
- ・ 文化訪問（美術館、劇場、コンサートホール）が、カリキュラムの中に正式に盛り込まれている国もある。職業芸術家が学校で教えることはまれであるが、いくつかの国では、職業芸術家とパートナーシップを築くことが促進されており、生徒は直接、芸術、文化の世界に触れることができる。
- ・ チェコ、フランス、イタリア、ポルトガル、スロヴェニア、英国（イングランドとウェールズ）では、学校と学校以外の機関が協力してカリキュラム外の芸術活動を行うことを推奨している。ベルギー、チェコ、スペイン、イタリア、ラトヴィア、オーストリア、ポルトガル、フィンランドでは、国または地方政府が、全面的にまたは部分的にこうした活動の財政援助をしている。